

一般助成 子どもの健やかな成長を願う事業(みちびき・はぐくみ)

「生きる力を育むためのモデルとなる大人と出会うプラットフォーム」事業

生きるモデルとなる大人と出会う場をつくり、子どもが主体的に生きる力を育む

「たった一つの正解」がない実社会で、多様な文化的背景や特徴を持つ人々とともに働き、生きていくためには、自己を肯定し、主体的に生きる力を子どものうちから身に付けなくてはならない。未来を創造する青少年が育つ場づくりを行っている大阪のNPO法人が、生きるモデルとなる大人との出会いの機会を設ける事業に取り組んだ。



「人の役に立つ商品を作ろう!」というテーマで製紙会社とプログラムを実施



小学生たちは社員と交流しながら商品を考える

趣旨に賛同してくれた企業との協働で大人との出会いを増やす事業を実施

「若者が希望と誇りを持ち、挑戦する社会」の実現をビジョンに掲げ、「子ども・若者・大人が出会い、学び合う場をつくる」ことをミッションとして活動しているNPO法人「JAE」。「社会で活躍するおとなとの出会い・交流」や「本物の仕事体験」を通じて「夢や目標に向かって自ら考え、行動する主体的な人材を輩出すること」を活動の目的にしているが、それは講師や支援側として関わる協働者にとっても、会社や仕事、自分自身について見つめ直し、意欲的に仕事に取り組むきっかけになることでもある。

同法人ではAJOSCの助成を受け、2018年度、①子どもが自分を肯定し、主体的に生きる力を育むため、生きるモデルとなる人との出会いの機会を増やす事業、②教職

員が学校現場で活用できる人の可視化と活用方法を提案できる仕組みをつくる事業の2つの事業に取り組んだ。

①の事業では以下の4つのプロジェクトを行ったが、各プロジェクトの具体的な内容は、各校のニーズや協働企業の特徴を生かして設定された。まず泉南市立新家東小学校6年生(35名)を対象としたプロジェクトでは、株式会社スシログローバルホールディングスと協働し、社員と交流しながら、障がいのあるお客様の接待、ケーススタディなどの仕事体験を行った。同市立樽井小学校5年生(76名)を対象としたプロジェクトでは、山陽製紙株式会社と協働し、「人の役に立つ商品を作ろう!」というテーマで、また同市立鳴滝小学校6年生(37名)を対象としたプロジェクトでは、森田アルミ工業株式会社と協働し、「めざせ Good Design 大賞!!」というテーマで、それぞれ社員と交流しな

がらチームでの企画体験、プレゼンなどを行った。大阪市立白鷺中学校3年生(80名)を対象としたプロジェクトでは、山陽製紙株式会社の社員をゲスト講師として迎え、仕事で大切にしていることなどについての講話、質疑応答・意見交換を行った。

同法人では、学校だけでは成し得るのが難しい外部企業とのつながりを構築するとともに、普段の学校での学びを活用した体験型授業を実施することができたと分析している。また、子どもたちが挑戦し、成長する姿を見た先生からも「宝物をいただきました」という声があったという。

生きるモデルとなる大人との出会いや挑戦体験が子どもたちの生きる力になる

②の事業では、協働した企業や社員の情報をリスト化するとともに、授業での活用イメージや留意点が伝わるよう、

①の各プロジェクトの概要をわかりやすくまとめた資料を作成した。同法人では、これによって今後の事業の深化と展開がよりスムーズになり、大きな弾みがつくきっかけになったと話す。

プロジェクト実施後にアンケートを行った学校の分析では、自己肯定感を持つ子どもが21%増加、主体性を測る指標でもポジティブ回答者数が17%増加したという。こうした結果を踏まえても、子どもが自分の将来像を描き、そのために一歩踏み出す力をつけるには、子どもにとって「こんな生き方がしたい」「私にもできるかもしれない」という意欲が引き出されるような大人との出会いが必要であり、失敗するにせよ、成功するにせよ、できるだけ早い段階から挑戦する体験を持つことが大事だと、同法人では分析している。



プログラムを体験することにより、やり遂げる難しさ、楽しさ、達成感を学ぶ



社員にとっても小学生との交流は貴重な体験となった

助成団体:特定非営利活動法人 JAE

<http://jae.or.jp/>



今後の展開につながるようなダイナミックな動きができました

今回、助成をいただいたことにより、子どもたちに「自己を肯定し、主体的に生きる力」を育むことができただけでなく、各ステークホルダー(学校、企業等)に取り組みの意義を伝えることができ、今後の継続発展につながる機会になったと思います。また、講師のリスト化、共有という「仕組みづくり」まで到達することができました。ありがとうございます。

特定非営利活動法人 JAE
代表理事 坂野充さん